

| | | | |
|----------|---|-------|----|
| 会議の名称 | 令和6年度第3回茅野市総合計画審議会 | | |
| 開催日時 | 令和6年10月31日(木) 18時30分～20時25分 | | |
| 開催場所 | 茅野市市民活動センター3階集会室 | | |
| 出席者 | ※委員：矢崎会長、高村副会長、林委員、小池正雄委員、伊藤委員、小池文人委員、市川委員、田子委員、鈴木委員、濱田委員、中島委員、深井委員、両角良久委員、磯井委員、両角智男委員、丸茂委員、萩尾委員、帯川委員 ※市側：柿澤副市長、熊谷地域創生政策監、平澤総務部長、小池企画部長、井出健康福祉部長、両角産業経済部長、五味こども部長、上田生涯学習部長、矢島総務課長、牛山DX推進課長、久保山地域創生課長、大蔵環境課長、守屋社会福祉課長、小林商工課長、立石都市計画課長、宮下水道課長、北澤こども課長、矢嶋生涯学習課長、大蔵企画課長、伊藤企画課企画係長、前島企画課企画係主査、小松企画課企画係主査 | | |
| 欠席者 | ※委員：入倉委員、百瀬委員、北原委員、小平委員、野崎委員 ※市側：黒澤都市建設部長、柳平建設関連課長 | | |
| 公開・非公開の別 | 公開・非公開 | 傍聴者の数 | 2人 |
| 議題及び会議結果 | | | |
| 発言者 | 協議内容・発言内容(概要) | | |
| 会長 | ○議事 1 開会 2 会長挨拶 3 副市長挨拶 4 協議事項 (1) 第6次茅野市総合計画(案)について資料1 (2) その他 5 その他 6 閉会 ○議事録 1 開会 2 会長挨拶 皆さんこんばんは。7月から審議をしてきた第6次茅野市総合計画の基本計画もそろそろリリースの時期となった。本日は、事前に配布させていただいた総合計画案について、質問、感想等をお出しいただきたいと考えている。基本計画を見させていただいたが、各課及び事務局の大変な努力を感じることができ、良い基本計画になってきたと思っている。本日は慎重審議をお願いしたい。 | | |
| 副市長 | 3 副市長挨拶 本日はお忙しいところ出席いただき感謝申し上げます。 現在茅野市は、市内10地区でまちづくり懇談会を行っており、あと中大塩地区を残すのみとなっている。これまで9地区を回ったわけだが、今年のまちづくり懇談会の感想としては、今までだと例えば、市民の皆さんが行政 | | |

にこうしたことをして欲しいといった要望が多かったが、今年は茅野市が行財政改革を進めていることもあるかもしれないが、市民の皆さんがまちづくりを我が事として考え、提言いただく、そんな地区が多かった印象である。例えばこの地域のコミュニティ或いは茅野市というものを、どんなやり方で残していこう、持続していこうといったご意見等もあれば、茅野市を残していくためには今までとは違うやり方をしていかなければいけない、環境に適応していかなければ生き残っていくことができないことから、地域コミュニティや広域のあり方などについても、ご意見等をいただいたと認識している。今回の6次総だが、5次総ができた後、令和に入り、新型コロナウイルスや、それに伴う社会の問題或いは国際情勢も非常に大きく変化していく中で、見通しのきかない時代に突入した。そうした中、改めて市民の皆さんがこの茅野市をどのように作り変えていくかということで新しい総合計画の策定に踏み込んでいただいたところ。委員の皆さんにはご意見、ご提言等をいただき、本当に感謝申し上げます。本日は委員の皆さん、それから茅野市がこれから見通しのつかない時代の中でどう進んでいかなければいけないのか、そのようなご意見、ご感想等をいただければありがたい。よろしく願いたい。

4 協議事項

- (1) 第6次茅野市総合計画（案）について 資料1
＝事務局から説明＝

会長

事務局から説明があったが、非常にボリュームな内容である。委員には事前お目通しをお願いしているところではあるが、ご自身の専門分野でも良いし、全体を通じて順番に感想やご質問等をお出しいただきたい。

委員

この会議に出席していつも思うのは、自分は福祉とか教育を長くやっているのですが、その分野のことしか話をしなくなってしまい、なかなか全体が見えなくなってしまうことが正直ある。そうすると、今後、様々な分野の横串になる行政改革とかDXとかGXのようなものを意識することが大事になってくると感じている。前回の会議で他の委員から、市の取組にはすべて税金がかかっているといった話があり、本当にその通りだと思った。ただ、こうした茅野市の行財政の現状や仕組みを知らないと、なかなか各分野でも、こうした目線で話ができないということがあると思っている。したがって、いつも会議では福祉、環境、教育などの各分野の代表から、横串となる行財政改革やDXなどの分野の代表、有識者の順にご意見等を言っていた方がいいが、それを逆の順番で回してみてもどうか。

会長

まず、基本計画の横串になっている部分のご意見等をお伺いしていく流れも必要であると考えているが、本日は、これまで通りの順番とさせていただきます。次回以降、考慮させていただきます。

委員

前回、お願いしたことは、しっかり修正いただいて、全体的にうまくでき上がってきていると思った。先ほどご説明いただいたところで一点教えていただきたい。99から100ページまでに数値目標というものがあるが、現状がこうで目標はこれといったものを示してもらえると、このように数字を増やす、或いは維持

| | |
|------------|--|
| | <p>する、減るけれども仕方ないなどの見通しが持てると思う。市民の方がこれを初めて見た時に、現状どうなのかわからないとピンとこない気がした。</p> <p>それともう1点。前回も、それぞれ出身母体に持ち帰って議論する余裕はなかったので、これはもうやむを得ないことだと思っている。今日の説明の中でも、未だに検討中の部分もあるということであり、行政が非常にタイトなスケジュールの中で、無理しながら計画を作っているのは重々承知しているが、この資料を事前に送っていただくのは、せめて会議の1週間前をお願いできないか。前は確か会議の2日前にメールをいただいたと記憶している。せめて週末1つ挟んだぐらいのお時間をいただけないとなかなか難しいところがある。次回からぜひその辺のタイムスケジュールを考えた上で、資料をお送りいただけるようお願いしたい。</p> |
| <p>会長</p> | <p>事務局いかがか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>まず、こちらの指標や目標値につきましては、現在計画期間中である第2次の総合戦略で進行管理を行っており、有識者会議という別の会議体で評価しているものになる。ここ部分については、あくまでも総合戦略と総合計画との関係性を示すページとし、この指標や目標値は削除したいと考えている。</p> <p>資料の送付については、大変遅くなり申し訳なく感じている。以後、そのようなことがないように余裕を持って送付させていただきたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>83ページに森林整備事業補助金と書いてあるが、これを森づくり県民税と表現にさせていただけたらと思う。</p> <p>また、SDGsについて、それぞれの分野に関連するアイコンが非常にわかりやすい形で入っており、市民全体で見えていく場合には、親しみを持ったものになると感じた。SDGsについては、これまでと同じような社会の仕組みや生活の仕方を続けていけば、人類が本当の豊かさを楽しみながら誰一人取り残されずに生きていくことができなくなってしまうということ。そもそも人類が生きていくために必要な場所としての地球の存続さえ危うくなってきてしまった。人類が生きていくための一定のポイント、未来の骨格、未来の形が、この17のゴールに図示されている。この17のゴールを基に169のターゲットがある。これは、2015年9月の国連総会で、我々の世界を変革する持続可能な開発目標2030アジェンダ、これがSDGsである。加盟する193か国が全会一致で合意された。この重み踏まえて、それをしっかりと生かそうとするこの総合計画は非常に意味があるものだと思う。</p> |
| <p>会長</p> | <p>指示いただいた農林業の基本計画について、修正等をお願いしたい。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>ご指摘いただいた通り、森づくり県民税、いわゆる森林税が県に入り、それが補助金という形で市に降りてくると思うので、この部分の表記については検討させていただく。</p> |
| <p>委員</p> | <p>これまでの会議で指摘した箇所は修正等いただいていることを確認した。1点、Well-Being 指標の設問の文末にバラつきがある。統一した方が良いと思う。</p> |

事務局

文末の言い回しを統一するよう検討する。

委員

前回や前々回の会議で他の委員が言っていたことが結構心に残っていて、やはり行政もこれからできないこと、できることというのが正直出てきて、そうなる住民同士も頑張って協力し合ってやっていかないと難しいという話があった。自身も子育て分野に関わっているが、この分野の方としかなかなか話す機会がない。そうすると、今日のような会議の場で問題共有ができると、とてもありがたいと思っている。特に今は教育の分野で学校再編の問題が出てきていて、これには行財政改革があったり、もっと言うと人口減少が絡む総合戦略のことなど、いろんな問題があると思うが、やっぱりできる限りそういったものを共有しておきたいと感じている。何となく自分たちはこれで良かったと思って20年、30年やってきたと思うが、いろいろが変わってきているといったことを他の分野の方とも共有していかないと次に繋がらないのかなと思っている。それを共有するのがこのような会議なのか、別の会議があるのかわからないが、そうしないと、後で、実際はそれ知らないよとなって、嫌な感じになってしまうと思う。また、私たちが知っていても今度は、学校に通っている子どもさんや保護者の方たちが知らないといけないと思うので、本日のような会議の場を共有の場に使っていただくと良いと思っている。次回以降の会議では、現状として何が問題で、それぞれの分野で何ができるのか、というような話ができれば、何となくここに来ている意味が出てくると思った。

子育てと教育の分野については、事務局とも打ち合わせさせていただき、さっき言った学校の再編なども、あり方の検討といった形にさせていただいた。基本的には市民の皆さんとちゃんと打ち合わせしながらになるが、一番最初に副市長が言ったとおり、やはり自分事として、考えていただく体制をこれからみんなで作っていかないといけないと考えている。

会長

今の話は私もずっと思っていて、どうしても基本計画は縦割りになりやすい。今回アイコンをいろいろ入れていただいたが、連携も意識しているということでご理解いただきたい。

委員

前回の会議でも話をしたが、この計画をもっともっと市民の皆さんに知っていただく必要があると思う。これから実際リリースされるということで、ぜひ広報をしっかりやっていただきたい。前回の会議後、同世代の方や子育て世代の方に総合計画を知っているか聞いたところ、ほぼ知らなかったもので、知ってもらうための工夫があればうれしいと思う。

あとは、先ほども他の委員から話があったが、資料の配布が会議の直前で、内容を全然読み込めていない状況である。本当は私が所属している子育て団体のメンバーにも共有し、中身の話をしたかったが、そのような時間もなかった。しかしながら、短い間にいただいた意見があるので、少しお伝えさせていただく。昨年、子どもの貧困対策として茅野市子ども家庭の豊かな未来づくり推進計画を策定したが、それが盛り込まれてないがどうなのかという話し。

その他、子育てとはあまり関係ないが、ごみの削減の部分に、リサイクルはあるけどリユースがないといった話があった。環境館がなくなってしまうことで不便さを感じている子育て世代がすごく多いという印象がある

| | |
|-----|--|
| 会長 | <p>し、大きな声をも上がっている。環境館でやっていた活動を続けていくといった動きもあるので、リサイクルとはまた別にリユースの活動も活発になると、暮らしやすさにも繋がるといった意見もあった。</p> <p>また、子どもの貧困に繋がることだが、文化・芸術、スポーツの分野で貧困による格差が出てきてしまうことについて、何か対策があったら良いという意見もあった。今から盛り込むことは難しいと思うが、5年後に見直す時にそういったことが入ってくるとより良い計画になってくると感じている。</p> <p>最後にもう1つ、やっぱり女性が働きやすい環境とか、女性の活躍とか言われる中、こういった会議の委員もやはり女性が少ない状況にある。ジェンダー平等とか女性が活躍できる場を生み出すことについて、ぜひ、市の職員から取り組んでもらいたいと意見をいただいた。そういったところを手本として、女性が活躍できる場をもっともっと広げていっていただけると、より良くなっていくのではないかと思う。</p> <p>こういった意見があることもぜひご承知置きいただいて、リリースに際しては、もっともっと子育て世代とか若い世代がこういう計画のことを知っていかないとまちが良くなっていかなくと思うので、ぜひたくさんの方の計画にさせていただいて、茅野市をどんどん良くしていただけたらなと思う。</p> <p>子育てにおける貧困対策等の話があったが、事務局いかがか。</p> |
| 事務局 | <p>委員おっしゃったのは、子ども家庭の豊かな未来づくり推進計画のことだと思うが、表記については担当課と検討させていただきたい。女性の活躍については、男女共同参画推進事業に、多くのメニューがある。今回は具体の事業として出しているわけではなく、大きい括りの中で考え方を示しているので、ご理解いただきたい。</p> <p>計画の周知については、広報やSNSによる発信は当然行うが、6次総のホームページにジャンプするQRコードを表示した名刺の大きさの紙を配布するなどの取組を検討している。良いアイデアがあればお寄せいただきたい。</p> |
| 委員 | <p>この総合計画を一言で表現すると、幸せを目指して、交流を大切にするとといった感じで、非常に共感するものである。一方で、公民協働のパートナーシップが必要だが、地域の人々の繋がりが希薄になっているところだが、強みと弱みが矛盾しているところだと感じた。そこで、人と人との交流を期待し、地域の人々が助け合うことが必要と書いてあるが、それをどうやってやるのかがほとんど書かれていない。その視点はとても大切であり、大変なところ。そこをどうしたら良いか考えると、やはりそこは生涯学習、社会教育、公民館活動といったところで補っていかなければいけない。それは今、公民館や社会教育委員の中でも課題にしているが、支え合い、助け合いのベースにあるのは、人と人が知り合うということであり、そこが欠けているから、人がいるのになり手がいないという人手不足になっていると思う。そこは社会教育としてやっていかななくてはいけないと思っている。</p> <p>そこで懸念するのが、この間市が実施した施設の再編に関わる市民アンケートのこと。新聞にも載ったりはしたが、再編にあたって留意すべきこと、といった設問があったとき、その地域のコミュニティが活性化するよう</p> |

な場づくり、というのは一番最下位であった。これは、そういった場を必要としてないということであり、充実しているからなのか、関心がないからなのか、ということになるが、自分は後者だと思っている。この住民の声に行政が応じて果たして大丈夫だろうか。やはりそこは行政が幸せ、交流を目指す時には、何か手当していかなくてはいけないところではないかと改めて考えさせられた。縄文の文化だとか学習環境という個人個人のところにはフォーカスされているが、人と人とのつながりの部分が少し手薄だなと感じている。

次に直接的な自分とは関係のない領域になるが、創業者、起業家を支援するような取り組みをするということで、それは良いと思ったが、出発点は何だろうか考えると、地域への愛着ではないかと感じた。したがって、始めた人を応援するので良いが、始めるようにするのはやはり地域だと思っている。そういった愛着形成でないといけない。自分は大学の教員をやっているが、学生たちが地域の企業やいろんな団体とのプロジェクトを推進していて、学生たちが非常に熱心にやっている。そういった人と人との交流はすごく重要になっていると思っている。

あと、読んでいて気が付いたのは、一貫して区・自治会という言い方をしているが、茅野市は行政区と言っていると思う。なぜ行政区という名前を出さずに区・自治会という言い方になったのか、疑問に思っている。最後にコメントで、総合計戦略の部分で目に止まったのが合計特殊出生率1.7という数値目標である。実は、一人の女性が何人子どもを産むかという統計値は50年間ほとんど変わっていない。だから子どもを産む人は産んでいるということ。言われているのは、結婚しないということである。そもそもそこに至らない人が多い。だから、子どもを産んだ人への支援はもちろん大切だが、やはり結婚してもらうことが大事である。それはなぜ起きているのかというと貧困であると思う。お金がないから、経済的に産めないから結婚しないと国では言われている。だから、茅野市がそれに当てはまると分析しているのか気にしている。地域によって変わるので、それを茅野市ではどうとらえるのかということ。茅野市は子育てしやすいから少し多いのかなと思って統計を見たらそうでもない。全国平均で逆に下という状況を見て、意外だなと思った。

それに関連してやっぱり賃金だと思う。結婚しないのは、経済的理由が大きいと一般的に言われている。そうなると、その地域の賃金をどう上げていくかということもやはり大きなテーマではないかと思う。国がやろうとしているが、茅野市ができることは何かないだろうか考えると、例えば市役所の職員の賃金で見せていくとういのもあると思う。

会長

全体的な視点で感想をいただいた。事務局で答えられることはあるか。

事務局

かなり幅広く、的を射た答えが出来ないかもしれないが、交流の大切さについては、当然、市としても考えている。起業・創業については、まさにおっしゃる通りだと思っている。当然、地域への愛着があるから地域の社会課題が分かり、その解決にチャレンジするという流れだと思う。現在商工課で女性の起業プログラムを始めているので、そうした取組を通じて事業化をしていきたいと考えている。

副市長

すべてにお答えできるかわからないが、まず、総合計画については、作成は義務付けられておらず、茅野市の意思として、この総合計画を作っているのが現状である。なぜ総合計画を作るかという、先ほどもあったが、縦割りで福祉、環境、教育などの各分野あがるということではなく、この地域が統合する形で、ごちゃまぜで考えていかなければいけない。様々な分野を統括、包括するという意味で総合計画を作っている。そのベースになるものは学びであると考えている。地域で生活していると様々なものが繋がっていると思う。例えば高齢者の問題は福祉だけの問題ではなく、実はその高齢者を支えるための子どもたちの教育だったり、或いは、社会教育だったり、様々な問題に繋がっていると思う。そして、まちをつくっているものは、市民一人ひとりが学び、課題を発見し、それを解決するために行動に移していくということだと思ふ。茅野市が生涯学習のまちづくりを宣言し、そこからパートナーシップのまちづくりに繋がっていったように、学びは基本になると考えている。

あともう1つ、なぜ行政区ではなくて、区・自治会と言っているかということだが、以前は行政区という言い方をしていた時もあったが、行政区となると行政側が定めた区域、行政に組み込まれた組織と捉えかねない。区や自治会は、地縁、地域の繋がりをきっかけとして、そこに住んでいる人たちが任意の団体として、様々な課題を自治活動を通じて解決してくという意味合いがある。そういう意味で第3次の総合計画の頃から区・自治会といった表現している。矢崎市長の時から区・自治会にしていこうということで、そのような表記になっている。そこは先ほど言った学びと自治の繋がる部分になると思うので、ご理解いただきたい。

地域創生政策監

出生率の話があったが、確かにご指摘の通りである。出生率というのは大体15歳から49歳までの女性が、各年代で何人子どもを産んでいるかという指標であり、現段階では行政計画において、出生率を目標に設定するというのはナンセンスではないかという議論が起きている。というもの、これから結婚して子どもを産むであろう女性が、その地域からいなくなれば、過疎の村であったとしても、出生率が上がることになる。したがって、今課題になっているのはやはり安心して子育てできる地域を作ることである。総合戦略では、安心して子育てできるというところで出生率を目標にしているが、その他の対策としては、女性が働ける場所の創出や、起業・創業の支援なども重要であるという観点もあり、総合計画においては、安心して子育てできる地域づくりに必要な取組として捉え、出生率以外の指標の設定を含めて検討していきたい。

委員

とても見やすく、わかりやすくまとめていただいた。労力をかけて一生懸命やっていただいたと思う。印象として3つほど。77ページの縄文を識る(しる)取組の推進に書いてあるが、自分が名古屋から5年前移住してこちらに来て感じるのは、先ほど自治というところで、小さな単位で非常に強いコミュニティがあるとあったが、これはきっととても縄文的なのではないかと感じている。遺跡が出たから縄文ではなくて、ここにいる人たちに縄文が息づいていると感じている。ここにまとめられているのはきっと問題提起だとは思ふが、そういうものが芽生えていけば、いろんなものが解決するのではないかというのが個人的な印象である。次に、85ページの新技術、新製品、新工法というところで、“知”の拠点である公立諏訪東京理科

大学と地元企業等との連携と書いてあるが、もう1つの視点として、いかにこの諏訪東京理科大学に価値があるかということ、全国から1,300人の学生が集まるということである。それぞれの文化を背負って茅野市に来ている子どもたちが、4年の間に、歴史的に趣のある、味わい深い茅野市の文化に触れずに、出ていってしまうことが非常に多く見受けられる。バス路線がほとんど市街地にしか走っていないというのも原因の一つだと思う。ぜひ。彼らが4年の間に、この諏訪の文化を体験できるような交通網や、アパート、シェアハウスのようなものができたら良いと思っている。

一方で彼らからだけではなく、住み手側からも1,300人の学生が、コミュニティの強いところ、特に高齢者が多いところで生活することで活気が出てくると思う。

最後に、そういった問題提起をどのようにやっていくかとなった時には、30ページにある一番最後のフレキシブルに内容を見直すところがあるが、これにつきと思う。状況は常に変わっているわけで、どんどんみんなアイデアを出し合って、楽しくやっていけば、茅野市はとても明るい、というイメージを持っている。

委員

今の話の繋がりで言うと、バスが少ないというよりは学生はバスに乗らないということ。今バスで通っている学生は1,300人のうち数百人。来年からはそれを変える予定になっている。今はバスを買わないとバスに乗れないが、来年からは全額大学がバスの費用を負担し、学生証でバスに乗れるようにする。一旦、すべての学生がバスに乗れるようになるということ。それを活用いただいて地域等へ学生を呼んでいただくとバスに乗って行けると思う。

基本計画に大学のことを入れていただき感謝。大学院まである一般市は全国にほとんどない。例えばこの近くだと、都留文科大学があるが、昔から大学院まであるということ売りしている。また、人口減少により、2040年頃から大学にとって非常に大きな影響が如実に出てくる。ここから10年ぐらいは、18歳人口は緩やかに減っていくが、そこから急激に減ることになる。昨日、文科省の人とその話をしてきたので、1つだけ紹介すると、今大学進学者は毎年約62.7万人ほどだが、2040年になると約46.0万人になるという推計が出ている。約16.7万人減ということ。これは、今東京にある大学がすべてなくなれば成り立つという数字である。それを見越して、どのような形で我々の大学もやっていくかということ、やはりまちと一緒に連携を強めていく必要があるということ。なぜ東京の大学にみんな行くかということ、東京の魅力というのがかなりの部分加わっているからである。したがって、我々の大学も、茅野市なり諏訪地域の魅力とともに大学がないと、おそらく成り立っていかないのかなと思っている。

1点だけ指摘させていただくと、100ページの「安心・安全、快適なまちをつくる」の数値目標が、不満を感じている人の割合0とあるが、これは多分無理ではないか。普通は、不満を持っている人の割合ではなく、満足な人の割合が、例えば9割を超えるなどといった目標になると思う。不満に思わない人が0になることはありえないと思う。

会長

総合戦略の数値目標は削るという話なので、事務局で対応いただきたい。

| | |
|---------|---|
| 委員 | <p>農業振興の部分を見させていただいた。農協と県の機関、農村支援センターの連携ということはその通りである。その下のブランド化についても、やはり同じように連携が必要である。この書き方だと、市の事業でやるといった感じを受ける。</p> <p>マーケットに選ばれる産地というのは非常に大切なことだと思う。</p> |
| 事務局 | <p>農産物のブランド化についても、当然、J A、県、生産者の皆さんと連携してやっていくということを含んでいる。</p> |
| 委員 | <p>計画について、素晴らしいと思った。ここにあり方が書いてあるということは、こういった心構えを持ってやっていきたいと思いますということだろうと受けとめている。同じように市民が心構えを持ってくれたら良いとすごく思うが、全部行政がやってくれると受け止められないかという心配もある。諏訪東京理科大がせっかくあるのに、大盛の定食屋がない、というのは、行政のやることではないので、市民がそういう心構えで、一緒にやってくれることを願っている。</p> |
| 会長 | <p>やっぱり市民も自分事としてとらえなくてはいけないだろう。</p> |
| 委員 | <p>観光については、ここにあるDMOのことも含めていろんなことが動き始めている。例えば、軽井沢観光協会との包括協定では、日本版ライドシェアの話が出ている。それがこの基本計画の中に反映されるとすれば、公共交通や観光の分野になる。「のらざあ」というより、A I乗合オンデマンド交通といった、「のらざあ」に限らず交通の新しい形というイメージで、もう少し広く書いておいていただくと、将来役に立つような気がする。中心市街地については、94ページの現状と課題のJ R茅野駅西口活性化の推進で、ベルビア、駅周辺の商店、飲食店の利用者が少なく、買い回りできる施設や電車の待ち時間を過ごす場所が不足しているとあるが、要はこれは逆説であって、ここに人が集まれば、当然そういったライドシェアの話であるとかタクシーやバスの利用促進にも繋がるということ。1行1行で独立してしまうと、複合的に取り組めないのではないかな。書きぶりを少し工夫した方が良い。</p> |
| 会長 | <p>ライドシェアについて、事務局何かコメントできるか。</p> |
| 地域創生政策監 | <p>「のらざあ」は、行きたい時に行きたい場所へ運んでくれる輸送機関として、ある意味未来社会を見ているが、免許返納したような方も乗れる福祉的な視点で、タクシー事業者の運行をリノベーションしていくというようなものでもある。ライドシェアの場合は、タクシー会社のドライバー不足を補うために白タクを入れていくということで、いわゆる外国でやっているウーバーのようなものだが、自家用車を一般市民が運転することを認めるウーバーは日本ではなかなか難しいが、タクシー会社のガバナンスのもとで、白タクを入れて、できるだけドライバー不足を解消していくというものが日本版のライドシェアの考え方になっている。</p> <p>料金的に見ると、のらざあは1人3キロまでで300円、5キロまでで500円、7キロ以上は700円である。一方ライドシェアの場合は、タクシーのガバナンスのもとで行っているのだから、逆に今までの料金の1.2倍だと</p> |

| | |
|----|--|
| | <p>か1. 3倍で運行しているという違いがある。</p> <p>軽井沢の場合は、ライドシェアを入れる前は、タクシーが来るのが1時間待ちは当たり前で、来ない場合もあって、夏場は大体マッチング率が47%の時もあるという状況だった。しかし、ライドシェアを入れたことによって、待ち時間が大体平均23分で、マッチング率も80%ぐらいまで上がっているということであり、こうした事例も、今後の公共交通を考える上で重要である、といったご指摘と捉えた。</p> <p>公共交通は利便性であるという論調ではあるが、やはりそのベースを支える人材確保という点について、少し検討させていただく余地はあると思っている。</p> <p>全体的に本当にわかりやすい資料にまとめていただいた。正直まだ読み込めていないが、ぱっと見た段階で、なるほどこういうことだったのかというのがわかってきた感じがする。</p> <p>出だしの交流というところが鍵になってということだが、この計画ではその交流をどう実現するのかという実現策にあまり触れられてない。一番肝となり、一丁目1番地である一方で、それは計画に入れることではなくて、おそらく実行段階でどうしていくかという問題になると思う。他の委員からも出ていた学生と関わる場をどう作っていくかということが一番大事だろうし、交流は、人の顔が見えなければしょうがないので、どう人の顔を見せていくのか。若い人は特にそうだと思うが、生活圏の中、自治体の中、さらにここで言うと行政区の中で生活しているというよりも、もう少し広い範囲でつき合っているケースが多いと思う。若者に選ばれるまちにするためには、そういった新たなサークルではないが、枠や場作りをどうしていくのか考えないと、この一丁目1番地の交流というのは実現できないと思う。</p> <p>ワークラボ八ヶ岳、まちライブラリーでは、なるべくそういった仕掛けをしていくようにしたいと思う。ぜひ、委員の皆さんも、そこでいろんなことを総合的に発表していただくとか議論するというような場に使っていただければと思う。これは別のまちでやったことだが、駅前のまちライブラリーで議会の議員が議会報告をやったことがあるが、議会報告を聞きながら自習していた高校生が手を挙げて質問するというような、いわゆるスピルオーバー効果が起こった。こういったことが結構大事であり、必要なのではないかと感じている。</p> |
| 委員 | <p>大変重要な視点だと思う。参考にさせていただきたい。</p> |
| 会長 | <p>今回、資料の中で移住・定住の促進のところに、他の分野のアイコンを多く盛り込んでいただいて、内容的にもこの短期間で非常にブラッシュアップされていると感じた。市と一緒に事業に携わらせていただいている観点から、もう少し足して欲しいなところがある。</p> <p>宅建協会では移住交流に関しては、移住・交流推進室と連携して、移住希望者向けの物件見学ツアーを年4回やらせていただいている。10月19日にも、秋の物件見学ツアーということで、36名に参加いただき行った。今回の企画は、移住の先輩の方や、移住を応援する楽ちのクラブの方々にもサポートいただき、青少年自然の森でバーベキューをやるということで、非常に活発な交流ができています。ここのところ、物件見学ツアーに関しての参</p> |

加者も減らずに、まだ微増しているような状態である。参加者の平均年齢は58歳で、93ページの成果指標の目標に物件見学ツアー年間参加人数、令和4年度が88名、目標値で令和10年度は100名と出されている。書き方がなかなか難しいと思うが、若者に選ばれるまちを目指す中、移住者においても若者に選ばれるというような目標値にした方が、計画が目指すまちの姿に合っていくと感じている。

もう1つ、参加者の希望として、何が見たいか、何を望んでいるかというところで、複数回答でアンケートに答えていただいたが、17名が戸建ての中古住宅を、13名が戸建ての賃貸を望んでいることがわかった。要は、参加者36名のうち30名の方が中古物件を探されているという状況である。多様性の尊重ということが書かれているが、移住者、移住希望者のニーズに応えるということも非常に大切で、この分野に子育てや公共交通などを紐付けていただいているのは非常に良いことだと思う。しかし、実際に活動している私達からすると、圧倒的に物件がない。要するに業界内でも中古住宅が非常に不足している。本当はないのか聞かれることが多いが、正直に答えるしかないという状態。

最後に、移住・定住に紐付けていただいているアイコンの中に、住環境の1-8を加えて欲しい。空き家の対策については、今、都市計画課と一緒に毎月、相談会を開催したり、一緒に取組を行っている。担当者も非常に熱心に活動してくれていて、助走はついてきているという感じはする。現状、これが欲しいという移住者さんのニーズに対応出来ておらず、なかなか結果が現れてこないが、この計画の移住・定住のところには、住環境の空き家を紐づけていただき、相乗効果を出していけたら良いと思う。

会長

大変貴重な情報をいただいた。市でもそういう視点で考えていただけると思うので、よろしくお願ひしたい。

委員

85ページから、前に少し話した若者に選ばれるまちを目指す人口減少対策としては、企業誘致が非常に大事だということで、そちらについては行財政改革の企業誘致による税収確保という部分で記載してある。なお力を入れてお願ひしたい。

また、創業に関する成果指標と目標があるが、目標は令和10年度末までに累計50人ということになっている。現状は令和5年度に31人という成果があるということで、実際に今、商工会議所を中心に創業塾というものを毎年開催しており、今年も、確か30名の枠いっぱいの方が来ていて、女性が圧倒的に多いとの報告を受けている。そういったことからすると、この50人という目標は早々に達成するのではないかと感じる。

一方、後継者不足という問題については、やはり非常に高齢になった事業者に跡継ぎがいなかったり、後継者がいないということで廃業せざるをえないという事例が全国で起こっている。市内においてもそういった問題がある。そこにうまく創業を希望する人をつなげば、後継者不足の解消にもつながる上に、創業希望者からすると設備投資もあまりかからず手っ取り早く創業できるということもある。そうした取組を、我々産業界に関わる人間も考えながらやってはいくが、行政も後押ししていただけたらと思う。

また、いろんなところで人口減少による人手不足という問題が非常に大きくなっている。それにより倒産するということが珍しくなくなってきた。こうした状況下において、DX・アナログの再構築ということで、こ

委員

ここに書いてあるのは製造業において生産性向上に向けたDXの導入ということであり、ここが非常にポイントになるのかなと思っている。これは製造業のことだが、サービス業に至っては、人手が足りないことによる機会損失が発生しているという現状もある。こういったところに外国人労働者に入ってもらい事業を成り立たせている現状もあるので、そういった部分について、外国人労働者が来やすい環境を作るということも必要なのかなと思う。

冊子のまとまりとしてでき上がってきたところを見て、特に、各分野のそれぞれの基本計画の重点施策と施策の方針等のところに、DX・アナログの再構築と行政改革、多様性の尊重などの横串の部分というのが色分けされて、それぞれ載っているのがとても見やすくなっていて、全体に関連しているということが良くわかるようになったと思う。

一方で、少し惜しいというところもある。33ページに、基本計画がどのような構造になっているのかというところが、3つ色分けされているが、それぞれの基本計画を見てみると、タイトルの部分にその色分けが生かされてない。それによって、自分が今3つのまちの姿のどこにいるのかがわかりにくい。また、例えば計画の中で公共交通が1-9と表現されているが、これがわかりにくいと思った。例えば基本計画のタイトルのところに1-9などとあって、3つのまちの姿は小さく、分野の名称は大きく、色も付けて表示すれば、ページをめくった時にここは1-1、ここは1-3などがわかり、ピンク色だからここは安心して快適に暮らせるまちの分野にいるというのがわかるようになると思う。こういった工夫、エディトリアルデザインができると、皆さん迷わずに見ることができると思う。

また、先ほど言ったとおり、横串のところはうまく色を活かしているが、3つのまちの姿の色と重複している。視覚効果は結構大事なので、それを解消すると読みやすさが変わってくると感じた。

読みやすさの部分でもう一つ。3つの〇〇がすごく多いと思った。あらゆるところに3つの〇〇がある。まちづくりの3つのポイント、まちづくりの3つの成果指標と目標とある。3つあることはぱっと見ればわかると思う。12個とかだと大変だが、3つは一目でわかるのに書く必要があるのか、そんなに重要なことなのかと思った。あともう1つ、目標1、目標2というのがすごくわかりにくい。最初から目標と付ければ良いのではないか。大目標。中目標とか。あと一番不可解なのが、基本計画に目標3がいきなり出てくることである。そのページだけ見ると、何に対しての目標3なのかと勝手に思う。分野目標が良いと思う。そういった工夫を細々とやって、俯瞰の図と個別の図を行ったり来たりした時に、色合いだとかレベル分けだとか、言葉の使い方などをもう少し整理していくと、このデザインがちゃんと生きた良い形になると思う。かなりデザインが統一されてきたい機会なのでここで俯瞰をしてみて、少し整理すると見やすくなる。頭を使わなくて良いというのも大事なデザインだと思うので、その辺も少し配慮いただけると良いと思った。

あと2点、基本構想の内容だが、9ページにこれからのまちづくりに必要なことということで、6項目書かれているが、すべてが一つの文章で書いてあり、少し読みづらいというのが正直なところ。主語と述語の関係がすごくわかりにくくなっているのが、文章を切って接続詞でつないだ方がもう少し読みやすいのではないかと感じた。全体が整理されてくると余計にデザインが綺

麗なだけに頭に入ってこない気がする。

最後に、内容に関して1点だけ。先ほど他の委員がおっしゃったジェンダーについて、少し気になっていた。実は6次総の検討を始めた頃、市民アンケートを取る時に、性別の項目に答えたくないという選択肢も入れた方がよいという話もしたが、ジェンダーの話は今、当たり前になってきていて、今朝の新聞の一面にも同性婚を認めないのは違憲であるという判決が出たという記事があった。そうってくると、38ページの一番下の多様性の尊重に近年LGBTQなどという文言があって、これを入れていただいたのはとても良かったとは思いますが、偏見や差別が問題になっているということ、配慮を行っているという言葉自体が、昨日の新聞記事を見ると、少し時代錯誤になってきていると気になった。つまりこれは人権の問題であり、それが課題になっているというような考え方にした方がおそらく良いだろうと感じた。また、ここにせっかく書いてあるのに81ページの基本計画にはこれらの施策なり課題というのが反映されていない。その辺のところも、もう少しリンケージをつけた方がよいと思う。この問題は意外と大事だと思っていて、例えば交流人口というところもそうだし、多様な人が住むところに安心して暮らすと考えた時に、こういった人権意識のあるところに住みたいというのは、例えば子どもがどんなアイデンティティーを持っているか、どんなふうに学校が受け入れるのか。制服はどうなっているのかなど、そういうところとも繋がっている。そして、DXもそうだが、例えば法律的には実現できていないことでも、先行してそういったことを考えていて、意識が高まっている自治体であるということはかなり重要なことだと思っている。すぐにできることがなくても、考えているということを入れておくことによって、次の計画を策定する時に、こういうこと言っていたけど、どうやって入れていこうかと考えるきっかけになっていくと思う。

会長

多くの指摘をいただいた。基本構想については、議会の議決を経たものであるので変えることはできないが、全体の色分けなどについて、事務局からコメントできるのであればお願いしたい。

事務局

デザインについては、前から指摘いただいていた。色使いについて、今回が初めてだと思うが、いずれにしても検討させていただきたい。

ジェンダーについては、一旦38ページの一番下の書き方が、今茅野市が書ける限界である。この課題に対してこれからどのように市として向き合っていくか、どのような取組を進めていくか、というところを含めて、これからこの5年間、6次総を進めていく中で考えていくというフェーズにある。

副会長

少しだけお話しさせていただきたい。ジェンダーは人権の問題になってくるが、実際、そういった方々が今、本当に求めているものに対して国も応えられていない状況である。戸籍や財産の問題など、踏み込んだところにはどこにも手を出せていないということ。こうした本当に求めているところは何かを考えると、茅野市はそこに重点を置いていますと言うには、私はまだ早いと思っている。したがって、ここはとても大事に表現していきたいと思っていて、表現にもこだわるよう、事務的にお願いしたところ。市でもすごく深く考えて、あえてこの表現を使っていたらと思う。男女共同参画にしてもそうだが、今回の計画には大きな括りで取り上げていただいているので、ご理解いただきたいと思います。

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>今のようなフォローアップをしていただけると大変ありがたい。一方で配慮という言葉の微妙さも感じているところ。おっしゃったように人権の話でもあるので、その辺のことをどのように表現していくか、また、先んじて考えているということ表現するのは大事であるということで申し上げた。</p> |
| 委員 | <p>まず、先ほど副市長から話があったように総合計画の策定自体は義務ではないが、今回市としてそれを作るというところで、市の意思が込められているなと感じている。</p> <p>全体の構成からすると、まず今回のデザインだが、実際に配布するような落とし込みをしていただいている中で、最初に現状と課題があり、課題の認識というところが多分出発点であって、それに対して、どういう建設的な内容を盛り込んでいくかというところで、今回の総合計画の議論が進んできたと思う。この課題の整理や、それが複雑にいろんなことに対して絡んでいるということから、今回の会議でも議論として上がっているが、様々な分野の皆さんが集まって議論することがやはり重要であるということが認識でき、かつ、横串の部分により、いろんな分野が絡んでこういった課題に対してアプローチしていく必要があるということが、このデザインから感じ取れ、とても良い計画になってきているという感じがした。</p> <p>先ほど他の委員がデザインのことを話したが、多分高度な指摘だとは思いますが、それだけ、事務局がそういった要求に対して応えられる能力があるということを期待しての指摘だと思う。すでにかなりブラッシュアップされて良いものだと思うが、さらに良いものになるということで期待を持っている。GXの部分にも50ページのところに、具体的な施策を入れていただき、すごく努力されていることを感じている。多分次の段階としては、実際にこの計画が市民一人ひとりに認知されて、自分事として捉え、行動につながっていくということだろう。その指標として、どこに向かえば良いかというツールとしてこういった地図を使っていける。5年間でその先の茅野市の未来に繋がる、とても良い計画になってきていると思う。</p> |
| 会長 | <p>一言ずついただき感謝申し上げます。全体を通じて私が思うところは、この計画が絵に描いた餅じゃいけないということと、やはり自分ごとが必要だということの2点が、自分に対する戒めも含めて感じたところ。本当にこれから茅野市が新しい段階で、何ができるか、何をしなければいけないのかということが非常に重要になってくるような気がする。是非とも皆さんのご協力をお願いしたいと思う。</p> <p>(2) その他</p> <p>なし</p> <p>進行を事務局に戻す。</p> |
| 事務局 | <p>5 その他</p> <p>本日皆様からいただいたご意見等については、反映できるものは反映させ、誤字・脱字の修正等も含めて、事務局で手を入れさせていただく。最終的な内容については、改めてこの会議を開くのではなく、事務局で整えたも</p> |

副会長

のを正副会長にご確認させていただき、リリースしていきたいと考えているので、ご承知置きいただきたい。本日欠席された委員もいるので、11月7日（木）ぐらいまでにお気づきの点等をご連絡いただければと思っている。よろしくをお願いしたい。

6 閉会

様々な視点から様々なご意見をいただき、新しい視点も多く開いたような気がする。私はこの計画はある意味、余白のある、ゆとりのある計画だと思っている。その余白から何を皆様が生み出してくださるのか、そして何を自分ごととして動いていただけるのか。この計画は全く閉ざされたものではなく、開かれた計画だと思っている。これから何か大きな場作りや市民の心構えというのがすごく響いた言葉だったが、皆様の心の中にも残る言葉ができて、また次の動きに入っていけるのではないかとと思っている。それでは、第3回茅野総合計画審議会を終わりとす。ありがとうございました。

以上